

例えばあなたはこんな問いかけに どう答えますか？

私たちが示した12の視点（前ページの視点）のなかで
あなたはどの視点を大切にしたいですか？
また、その理由は何ですか？

地球温暖化の問題で、あなたは暮らしの中で何ができますか？
また、何をしなければならないですか？

地球温暖化を食い止めるために、
どのような規制や負担が必要だと思いますか？

<ご意見記入欄>

※差し支えがなければお答えください。

- ①お住まい区： 区 又は その他の市町： 市／町
- ②性 別： 男性 女性（※該当の項目を○でお囲みください）
- ③年 齢： 歳代

○応募方法

郵送、FAX、電子メールで送付ください。

（※様式は問いません。FAXで送付いただく場合は上記の記入欄をご活用下さい。）

○送付先及び問い合わせ先

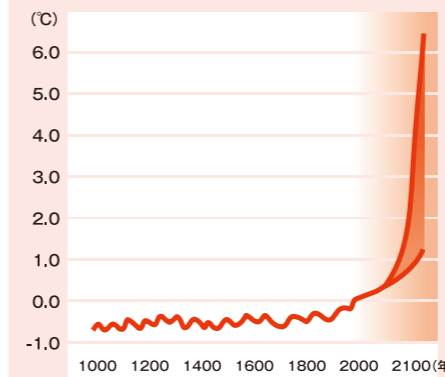
住所：〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
京都市環境政策局地球温暖化対策室

TEL：075-222-4555 FAX：075-211-9286 電子メール：ge@city.kyoto.jp

「環境にやさしいライフスタイルを考える市民会議」 の提言骨子についてみなさんの意見を募集します！！

募集期間：平成22年1月21日（木）～2月21日（日）

■地球の気温の変化



「IPCC第4次評価報告書2007」より

地球温暖化の現状

2005年までの100年間に世界の平均気温は0.74°C上昇しています。

また、最近50年の気温は、過去100年のほぼ2倍のスピードで上昇しており、近年になるほど温暖化が加速していることがわかります。

さらに、温暖化は気温の変化として表れるだけでなく、海面上昇や、洪水、熱波、干ばつなどの異常気象を引き起こし、生態系や我々の健康などへの影響が懸念されています。

『地球温暖化問題は、私たち、未来の世代、生命すべての問題。いま私たちができること、それはライフスタイルを見直し、環境にやさしいものに変えていくこと。私たちのライフスタイルを変えていくため、私たち一人ひとりが考え、行動を起こしていきたい。』

こうした思いから、私たち環境にやさしいライフスタイルを考える市民会議のメンバーは、平成20年8月から熱い議論を重ねてきました。

この議論に、もっと多くの方々に加わっていただくため、私たちの議論をいったん提言骨子としてまとめ、みなさんのご意見を募集することにしました。

いただいたご意見は、私たちの議論に生かし、最終的な提言をまとめていきます。

みなさんからのご意見をお待ちしています。

平成22年1月

環境にやさしいライフスタイルを考える市民会議

提言骨子の全文は、地球温暖化対策室ホームページに掲載しています。

また、市役所案内所、情報公開コーナーなどで配布しています。

<http://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/soshiki/5-7-0-0.html>

京都市の地球温暖化対策

検索



私たちが大切にしたい、「12の視点」



1 持たない幸せ

「必要な分だけ使う」、「物を使いきる」、「壊れたら修繕してまた使う」という生活や価値観を大切にしませんか。物を大切にすることと同時に、地球の資源に限りがあるということも考えましょう。また、バスや地下鉄など公共交通機関の利用促進など、社会の共有物の有効活用という視点も、「エコ」を進めていく上で大切にしていきたいですね。

2 「豊かさ」の問い直し

「真に豊かなくらし」や「健康的なくらし」、更に「人間にやさしい」、「子どもにやさしい」という問い掛けを地球温暖化問題の入口にしてもいいのではないのでしょうか。金銭的な価値ではなく、人間の内面にある精神的な豊かさや、まちや地域の空間的な豊かさなどを問い直すことで、「環境にやさしい」という生活をしてみませんか。

3 自然のサイクル(周期)に即して生きる

太陽が昇ったら起床し、沈んだら寝るといった生活が、もっとも人間にとってやさしい生活だと思いませんか。深夜型生活が社会に浸透していますが、身体と心の両面の健康から、何らかの見直しが必要ではないのでしょうか。ぐっすり眠れる生活、朝食がおいしい生活、季節の旬を大切にする生活など、自然のサイクルに沿った生活を大切にしてみませんか。

4 「エコ」を楽しむ

「エコ」な生活が時代の最先端といえるような社会になればいいですね。「エコがかっこいい」、「真似したい」というように、「エコ」を感覚や感性に響かせ、楽しく前向きにとらえてみましょう。水筒や風呂敷を持ち歩く、自転車でまちを移動する、古着でファッションを楽しむなど、エコ生活の中で、自分らしさを表現してみませんか。

5 選べない悲惨

「環境にやさしいものを買おうとしても商品の選択肢がない」、「働き方を選べない」、「毎日、家族で食事をしたが叶わない」。このように、私たちは様々な「選べない状況」と直面しています。環境にやさしいライフスタイルを創造する上で、画一化された社会ではなく、「選択できる」という社会を築いていきたいですね。

6 「地球を思う心」を育もう

自然を美しいと思う心に大差がないように、「地球を思う心」を共有するため、子どもの頃から学習をとおして原体験をつくる必要があるのではないのでしょうか。また、生涯学習で「地球を取り巻く危機意識」や「省エネによるお得感」を訴えるような方策や仕掛けも重要です。学習をとおして地球環境に関する価値観を共有したいですね。

7 「エコ」で得する

環境にやさしい生き方を実践する上で、「得する」という価値観は重要ではないのでしょうか。エコ商品への買い替えや、家庭での日常の省エネも、「得する」という視点は無視できないでしょう。「得する」ということを、私たち市民レベルでの地球温暖化問題に対する行動のきっかけにしてみませんか。

8 地域のことは地域で考えたい

私たちのライフスタイルは、身近な地域(町内会、元学区、行政区など)と深く関係しています。この身近な地域から「エコ」を発信してみませんか。そして、「エコ」を進める上で、「地域」のことを「地域」で決定するような主体性を大切にしたいですね。

9 「京都」を愛したい

「京都のまち」の将来の姿をイメージしましょう。例えば「歩いて楽しむまち」、「電車やバス中心のまち」、「観光客にやさしいまち」などは、すべて「環境にやさしい」ということを前提にしていませんか。こうした、私たち京都市民の「京都」への熱い思いを、次の世代にしっかりと引き継いでいきたいですね。

10 「絆」、「うるおい」、「関係」の見直し

家族や親子の絆、友情など、人間同士の潤いある関係を大切にしましょう。地域固有の歴史や文化も同様です。地域で生まれた一人ひとりの価値観が尊重されるということは、ひいては人間関係の豊かさに結びつくのではないのでしょうか。また、人間と自然の関係にも目を向けたいですね。地産地消、対面販売や量り売りなどの良さも問い直したいですね。

11 「京都が大切にしてきたもの」を大切に

京都には先人の工夫が数多く残されています。残った食材で手軽に作れるおぼんざいや、盆地特有の寒暖を和らげる町家の生活などはエコそのものです。また、鴨川の流れや、春の桜、秋の紅葉などの風景、更に門掃きなどの習慣も大切にしてきました。永きにわたり京都が大切にしてきたものが、「エコ」とつながっていることを考えてみませんか。

12 みんなでつくろう社会のルール

私たちの生活は社会のルールで守られてきました。地球温暖化についても、この新しい問題に対応した新しいルールを作ることが望まれます。このルールには、家庭でのしつけや学校教育、生涯学習、更に条例や法律まで様々なレベルがあります。みんなで、社会のルールを考えていきましょう。

これまでの私たちの行動が地球温暖化という結末をもたらしていることを忘れてはいけない

私たちは地球規模で考えて行動する「グローバル・地球市民」でありたい

場合によっては規制的手段を受け入れなければならないという覚悟を持っている

地球温暖化問題を人類の生存の問題としてとらえたい

私たちは地球温暖化問題に積極的に向き合い、更に一歩踏み出そうではありませんかそして、社会を変えていきたい！